

別冊第一

軍機

機密蘭印部隊第一護衛隊命令作第六號

昭和十七年二月十二日ホ口旗艦那珂

蘭印部隊第一護衛隊指揮官 西村祥治

11 / 50

第一敵情並ニ友軍ノ情況

機密蘭印部隊第一護衛隊命令作第四號ノ通

第二第一護衛隊ハ土橋兵團ヲ護衛シテ二月十九日ホ口

發二月二十六日未明其ノ主力ヲクラガン南側其

ノ一部ヲ同北側ニ揚陸上陸作戰ヲ支援スルト共ニ

泊地附近ノ敵潛掃蕩並ニ敵水上兵力ヲ殺手滅セントス

第三軍隊区分

1139

後方警戒隊	輸送船隊	掃蕩隊	主隊	区分
9dg 司令	24dg 司令	2dg 司令	△ 4Sd	指揮官兵
9dg (4隻)	24dg (江蘇、 山東、 若鷹 15W 16W 17W 18W 20W 1/2kg TX41)	2dg 21ch 江風	那珂	カ 主 要 任 務
輸送船隊後方警戒	接護 輸送船隊嚮導守直	輸送船隊前路掃蕩	全作戦支援	

第一軍隊区分（「木口」出撃時引泊地進入準備
隊形下令時迄）

前方警戒隊	輸送船隊	掃海隊	掃蕩隊	主隊	区分
2dg 司令	24dg 司令	春雨驅逐艦長	21chg 司令	△ 4Sd	指揮官
10dg 30wg 20w	24dg (-20) 若鷹 TX41	2D 2dg 15w 16w	21chg	那珂	兵力
二泊地先行掃海 一輸送船隊前方警戒	護衛	輸送船隊前路掃海	前路敵潛掃蕩	全作戰支援	主要任務

第二軍隊区分(泊地進入準備隊形下令時以後)

今井 納凡夫

後方警戒隊

9dg 司令

9dg (-山腰)

輸送船隊後方警戒

輸送船隊区分

機密上蘭印部隊第一護衛隊命令作第四號ニ同シ
但薩摩ヲ除キ列外ニ乾隆処ヲ加フ

第四各隊、作戰要領左ノ通定ム

一「バタ」出撃手要領

十九日〇七〇。掃蕩隊(2chg)「ホロ」出撃手別圖第一所定区域、敵潛掃蕩ヲ實施シタル後一六〇頃A點附近ニ第一警戒航行隊形ニ占位ス
爾餘、艦船ハ、ハ。〇。21chg 那珂 30wg 20w 海風 若鷹 輸送船隊(分隊番號順序) 9dg 順ニ逐次出撃手灣外ニ於テ

第一警戒航行隊形ヲ制形別圖第二豫定航路ヲ
進撃手ス

ニ護衛要領

(イ) 豫定航路

別圖第二通

但シ第一第二第三航路何レニヨルカハ當時ノ敵情

ニヨリ之ヲ決定ス

特令ナケレバ第一航路トス

(ロ) 航行速力

原速力

半速力

微速力

八節

七節

六節

(い) 敬言戒航行隊形
 書夜間敬言戒航行隊形之變換時機ハ特令
 ナケレバ日出三十分前及日没時トス

3

備考

(1) 聽音掃蕩列ハ停止聽音ヲ例トスルモ天候其
 他ノ情況ニ依リ實施不能ナル場合ハ司令所定
 ニヨリ探信掃蕩ヲ行フモトス

(2) 聽音掃蕩實施中モ探信掃蕩列艦ハ探信
 ヲ行フ

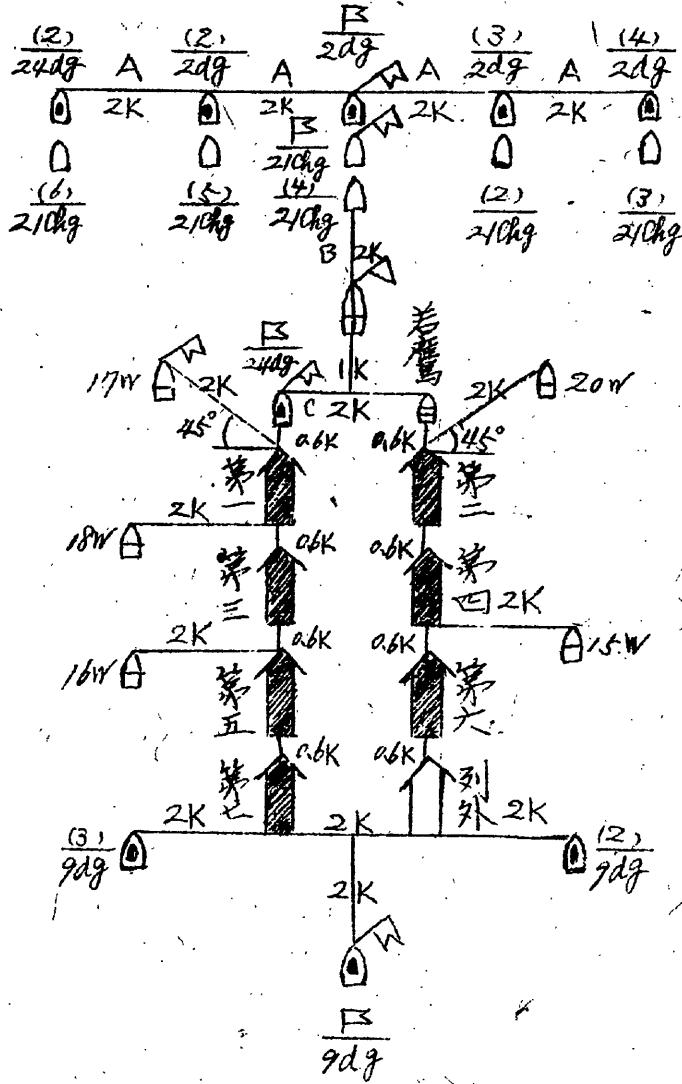
(3) 敵機ノ大空襲ニヨリ輸送船隊ノ分散ヲ令シタル場
 合中央ヨリ右ノ直衛ハ右側分散隊ニ左ノ直衛ハ
 左側分散隊ニ隨伴スルモノトス

第二警戒航行隊形(夜間)

5511

備考

A B Cハ特令ナケレバ圖示ノ通トス



(二) 對潜水艦之護衛

(一) 敵潜水艦ニ對シテハ探信儀、聽音機ヲ活用シテ
圖ルト共ニ見張ヲ嚴ニシ探知(聽音)發見セ
バ徹底的ニ攻撃手シ之ガ攻撃ヲ期スルモノトス

(二) 輸送船隊航行中ハ令ニ依リ之字運動ヲ行フ

(ホ) 對航空機之護衛

(一) 對空防禦示砲火ノ發揮ハ各艦艇長ノ所信ニ依
ル

(二) 敵機ノ大空襲ニ對シテハ輸送船隊ノ分散ヲ令スル
コトアルモ單機又ハ數機ノ空襲ニ對シテハ各艦艇

ノ防空砲火ノ發揮ニ依リ之ガ殺手攘ニ努ムルモノトス

(ハ) 對水上艦艇ノ護衛

敵水上艦艇ノ來龍長ニ對シテハ主トシテ那珂及

駆逐艦之ニ當ル

輸送船隊及爾餘ノ艦艇ハ若鷹之ヲ郷向道寸シ
機宜非敵側ニ回避シタル後成シ得ル限り豫定
ノ航行ヲ續行スルモノトス

(ト) 對機雷防衛

各艦ハ令ナクシテ水深一五。米海面ニ入ル前防雷
航行トナシ水深一。米海面ニ入ラバ避雷航行
ヲ行フモノトス

(子) 輸送船故障又ハ遭難時ノ處置

(一) 輸送船遭難セル場合ハ速ニ列外ニ出デテ護衛隊指揮官指定ノ艦船之ガ救難ニ當ルモノトス

(二) 故障落伍船ハ極力應急處置ヲ以テ輸送船隊ニ追ホスルヲ原則トシ故障復舊ニ長時

間ヲ要スル場合ハ間接護衛ノ下ニ單獨上陸點ニ直行スルヲ例トス

三、淺海面航行要領

(3) ID 2dg 及 3ong ハ特令ニ依リ解列那珂ノ前程ハ料附

近ヲ先行シ豫定航路上ノ掃海ヲ實施ス

(ID 2dg ハ右側列 3ong ハ左側列トス)

(四) 爾餘、艦船ハ適時令ニ依リ泊地進入隊形ヲ制
リ豫定航路上ヲ航行ス

四、泊地進入要領

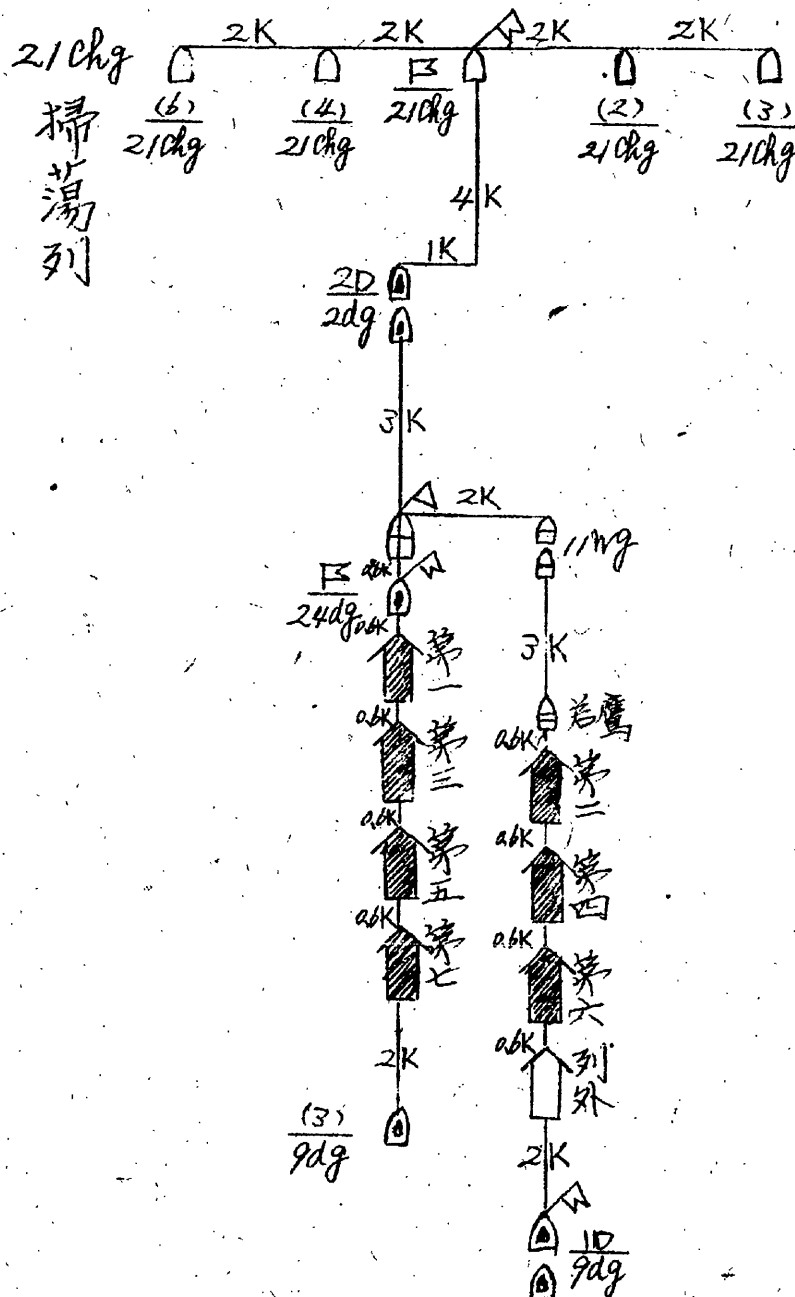
(一) 江風五號駆潜艇ハ令ニ依リ解列先行別圖
第三目標艇ノ位置ニ在リテ輸送船隊進入時
ノ目標(方向性白灯上下二個掲揚)トナリ附
近海面ノ敬言戒ニ任ジ輸送船隊通過後原隊ニ
復歸スルモノトス

(四) 1D 2dg 及 500g 20W ハ特令ニヨリ解列先行豫定航路上及
第一泊地附近ノ探掃索敵敬言戒ヲ行フ

(一) 泊地及碇泊隊形 別圖 第三ノ通
 第一泊地投錨豫定時刻 二十六日〇一〇〇

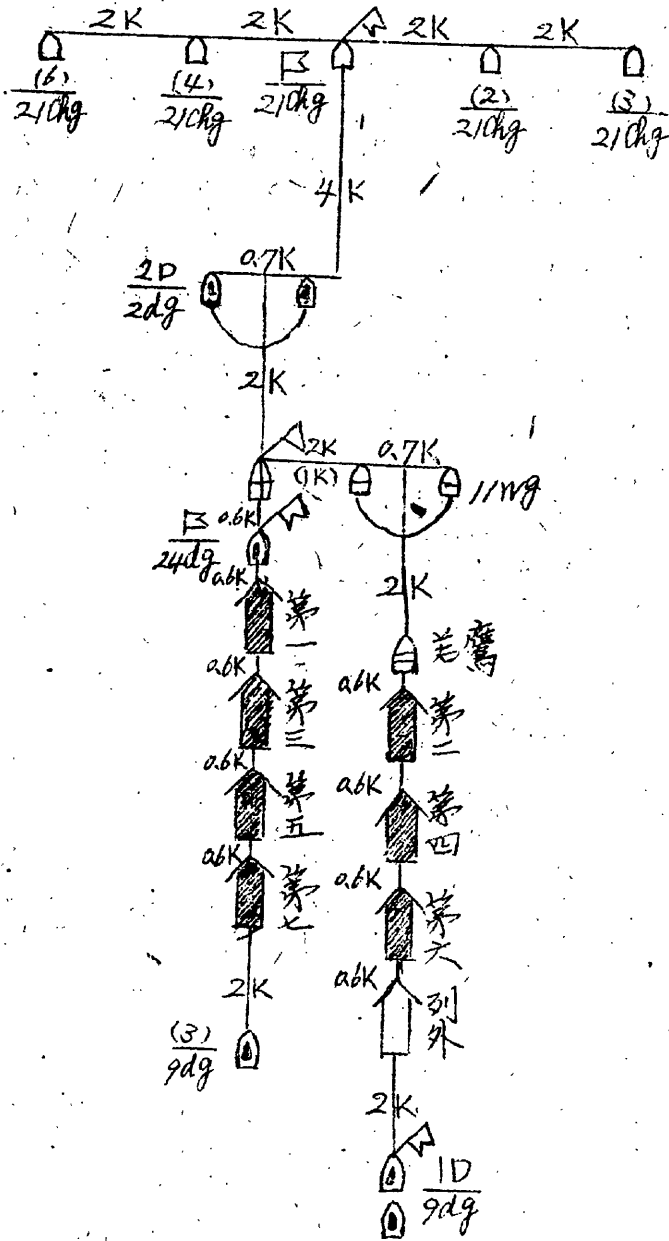
(二) 泊地進入準備隊形

11511



1911

備考



(水) 泊地進入隊形
掃蕩列

(一) 輸送船隊、横間隔ハ泊地入港針路ニ於テ令ナクシテ一料トナスモノトス

(二) 掃蕩列艇潜艇ハ泊地ノ掃蕩ヲ終リタル後令ナクシテ解列散言戒配備ニ就クモノトス

五、警言戒

輸送船隊泊地進入後各艦艇ハ特令アル迄左ノ要領ニ依リ別圖第四(甲乙)ノ哨区ニ在リテ警言戒ニ任ズ

(一) 駆潜艇及掃海艇(3019)ハ概ネ所定位置ニ在リテ聽音柱ニ見張ヲ嚴シ敵潜ヲ進入ヲ防止撃滅ス

(二) 2dg 各艦ハ各哨区内ヲ晝間機宜ニ夜間圖示
 通移動哨戒ニ敵艦艇ヲ探知發見敵
 機ノ穀手攘ニ任ズ

(三) 那珂及 9dg ハ主トシテ A-1-F 哨区ノ東北方海
 面ヲ 24dg (20) ハ主トシテ A-1-F 哨区北西方海
 面ヲ機宜編隊遊弋シツ、敵艦艇飛行機
 ノ穀手攘ニ當ル
 但シ那珂ハ機宜行動スルコトアルベシ

六、第三、四泊地ノ探掃

特令ヲケレバ 24dg 司令所定ニヨリ二十六日天明時ヨリ
 2dg (20) 各艦内火艇及乾隆丸大發四ヲ以テ

小掃海ヲ安負施ニ第二泊地ノ探掃ヲ行フ
第三、四泊地ノ探掃ハ特令ス

第五通信

左ノ外機密ヲ蘭印部隊第一護衛隊命令作第三
號ノ通

一隊内連絡電波ヲ一九七〇K.C (子ウ〇) トシ各艦艇常
時配員スルモノトス

二護衛隊指揮官(那珂) 上陸兵團長(第二派遣通
信隊)間ノ連絡電波ヲ五六五五K.C トス
第二派遣通信隊乗船中ハ主トシテ(タン) 及高

雄放送通信系ニ配員情報ノ聴取ニ努メ特ニ
要スル場合ノ外護衛隊指揮官上陸兵團長間
ノ連絡ハ信號ヲ主用スルモノトス

10

三輸送船隊泊地投錨後特令アル迄兵團長乗船
(アリキナ)ハ常時四一。KCニ配員那珂ト連絡ス
此ノ場合輸送船ヘノ無線通信ハアリキナ中継
ニ依ルヲ建前トス

第六味方識別

機密菲島部隊命令第一號ノ通

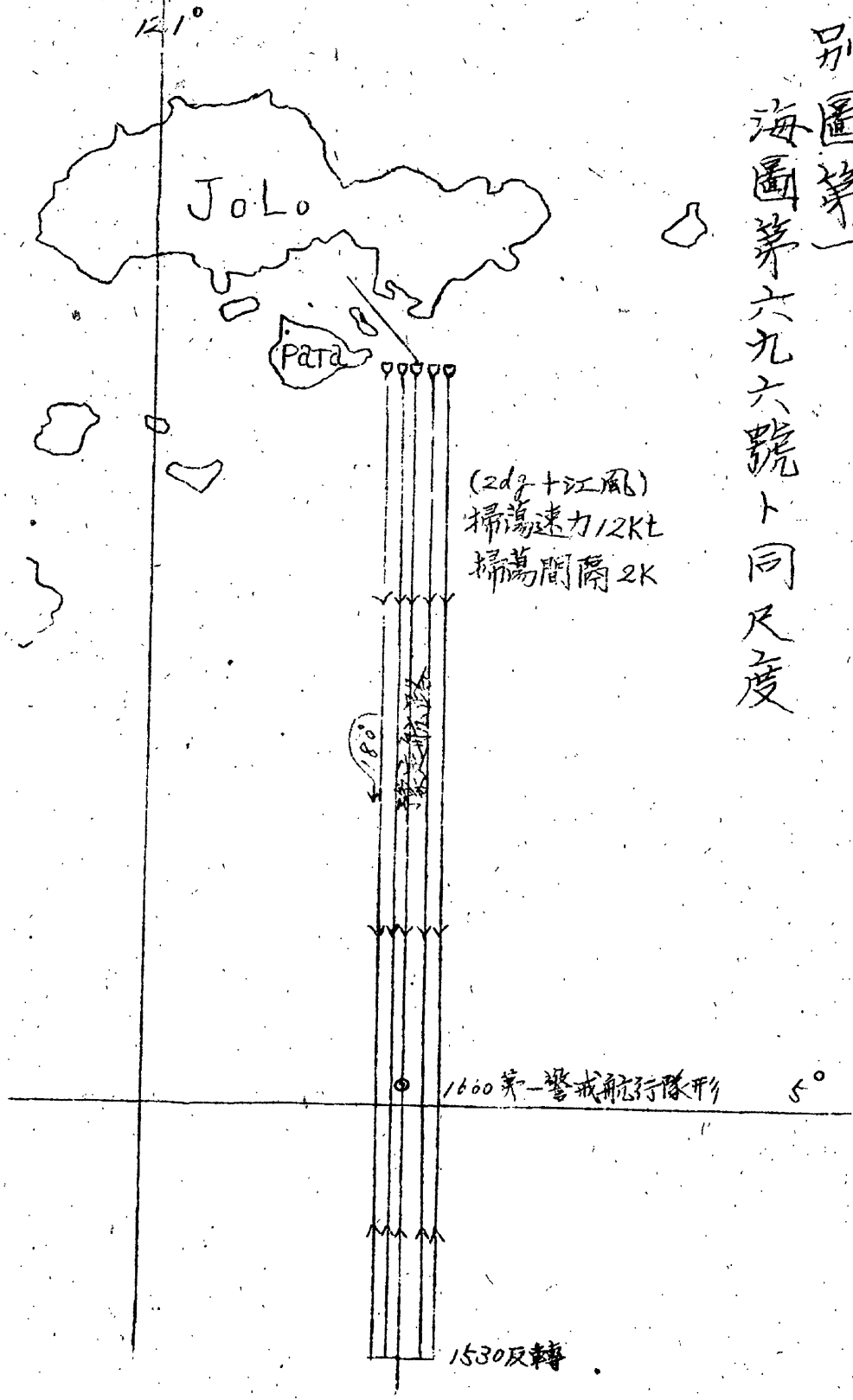
「附令」

「ホロ」出撃手後艦内哨戒第三配備水雷戦隊ハ二
十一節即時待機二十六節十分間最大戦速一時
間待機トシ掃海隊駆潜隊等ハ右ニ準ズルモノ
トス
但シ敵情ニ應ジ艦内哨戒機關待機ノ強化ハ特
令スル外各司令艦長ノ所信トス

(終)

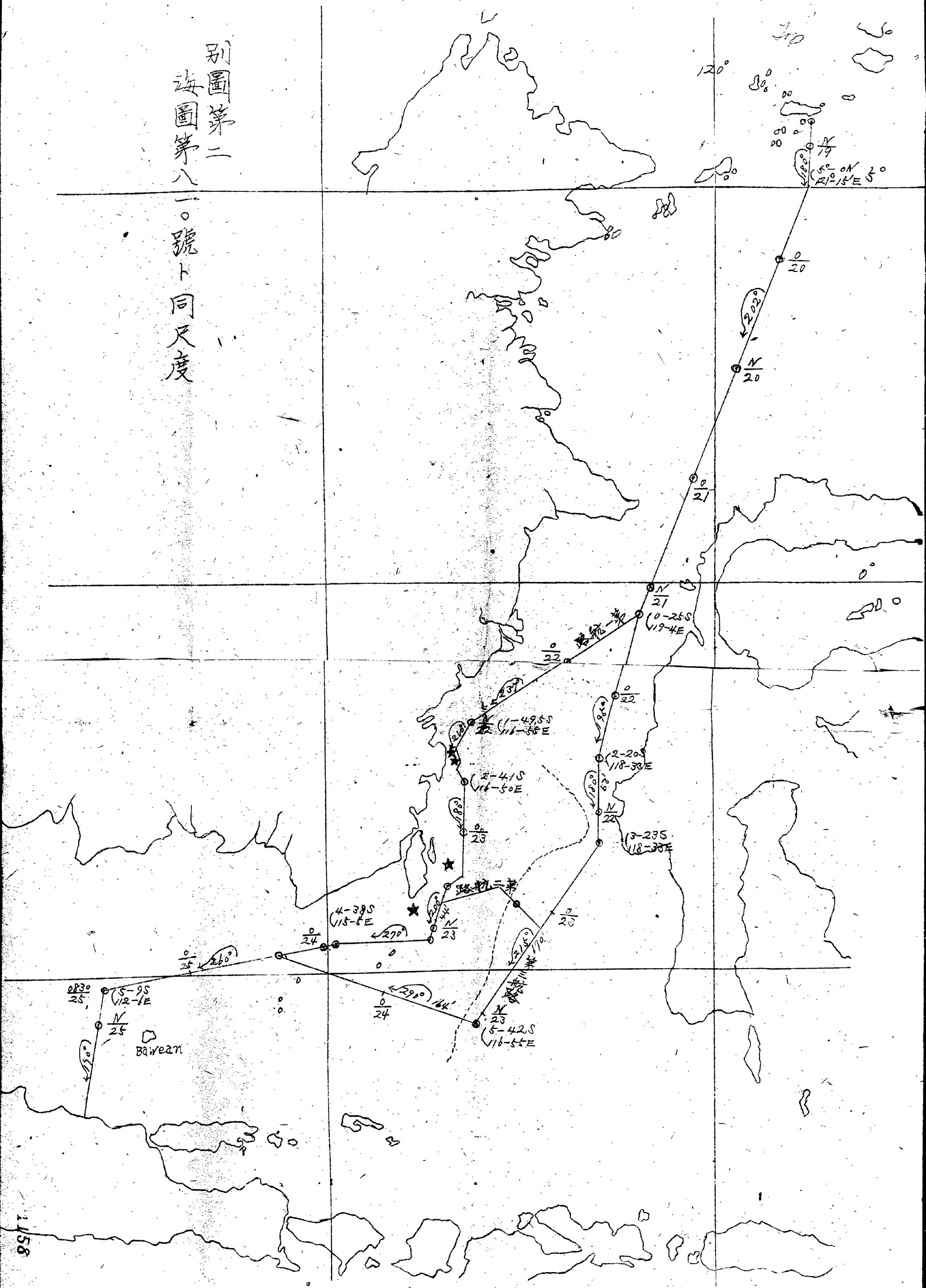
//

2911



別圖第一
海圖第六九六號ト同尺度

別圖第二
海圖第八一〇號
卜同尺度

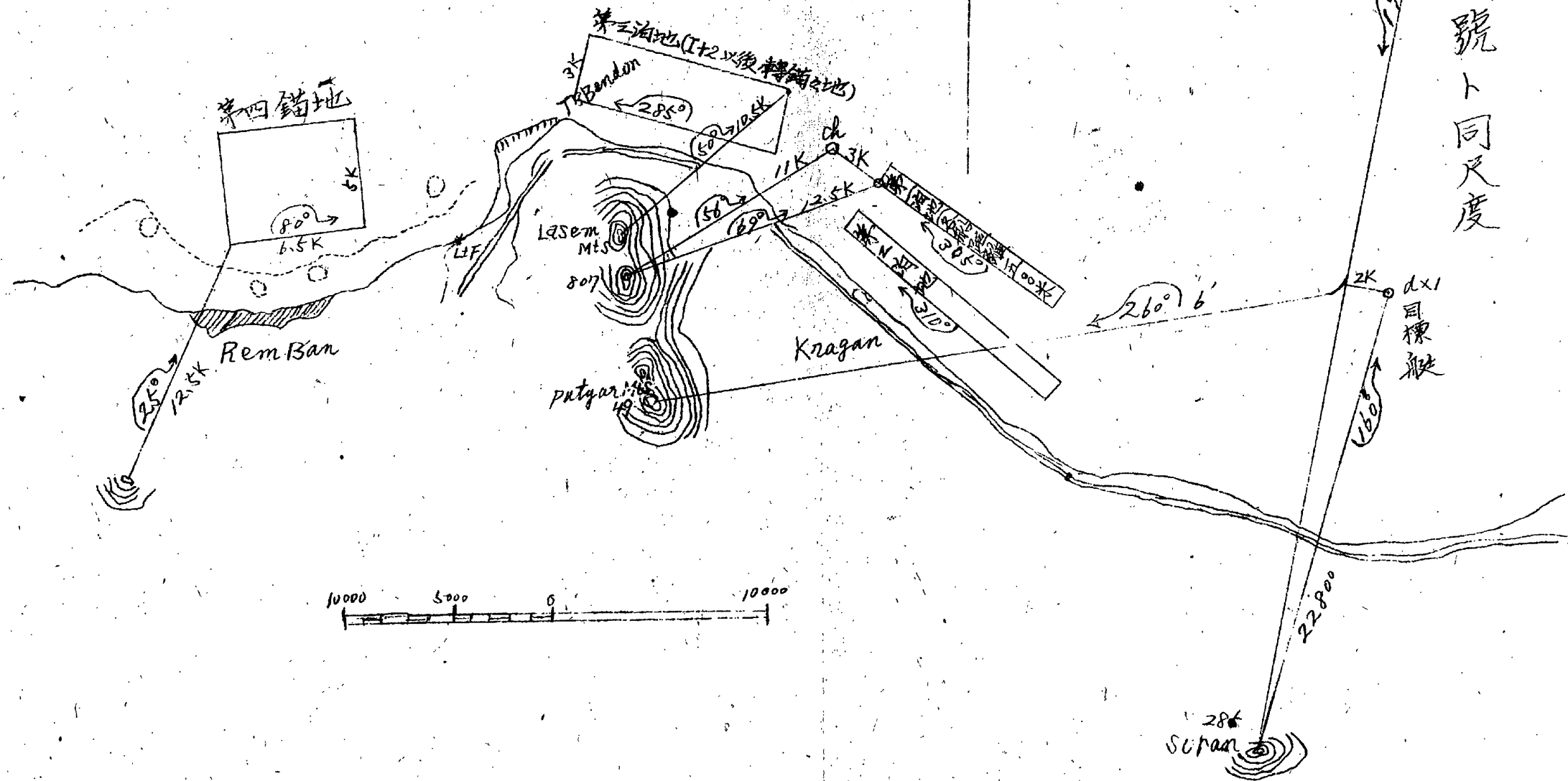


158

1159

70

別圖第三
海圖第九八八號卜同尺度



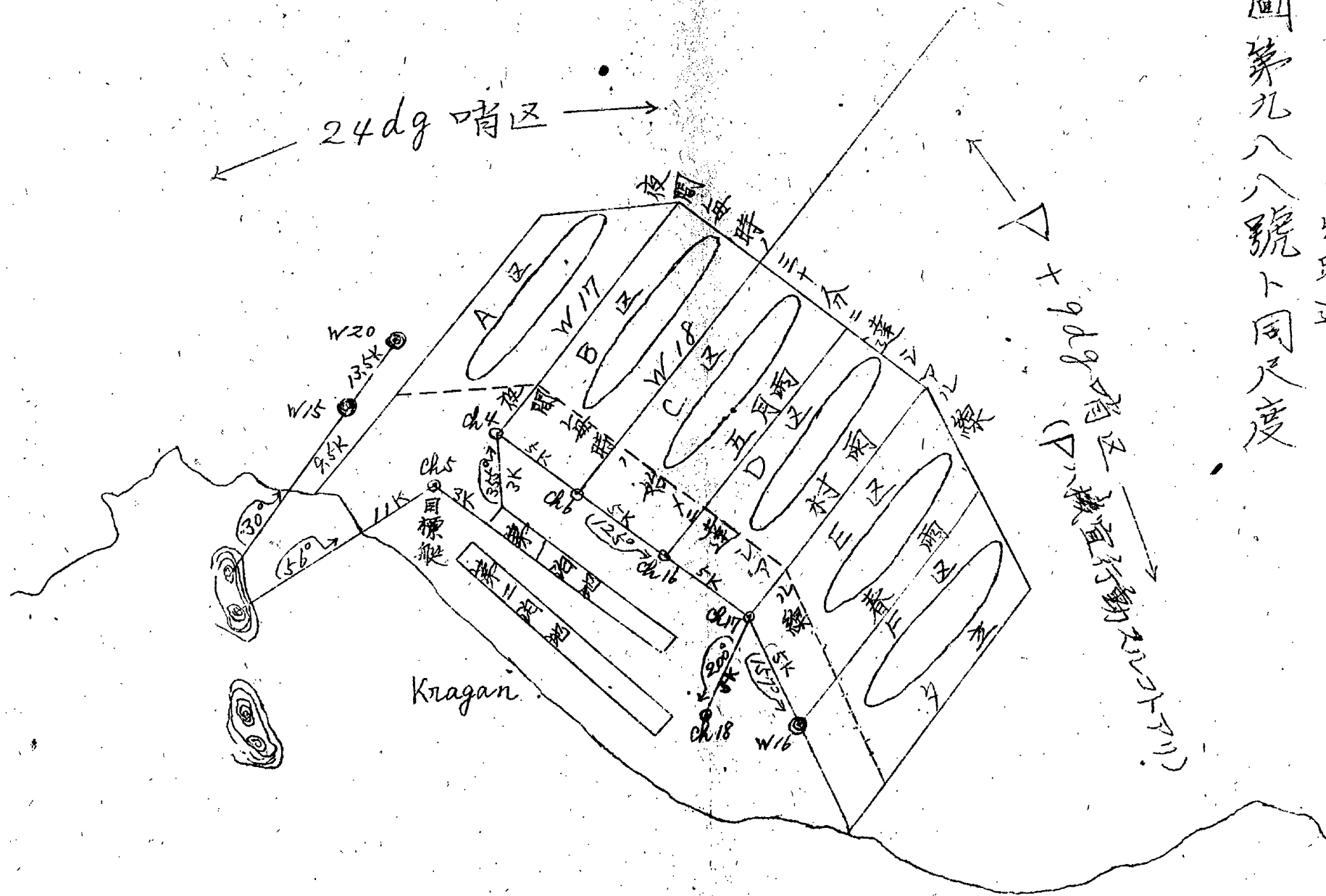
0911

Top

別圖第四(甲)

夜間哨区(日出時迄)

海圖第九八八號卜同尺度



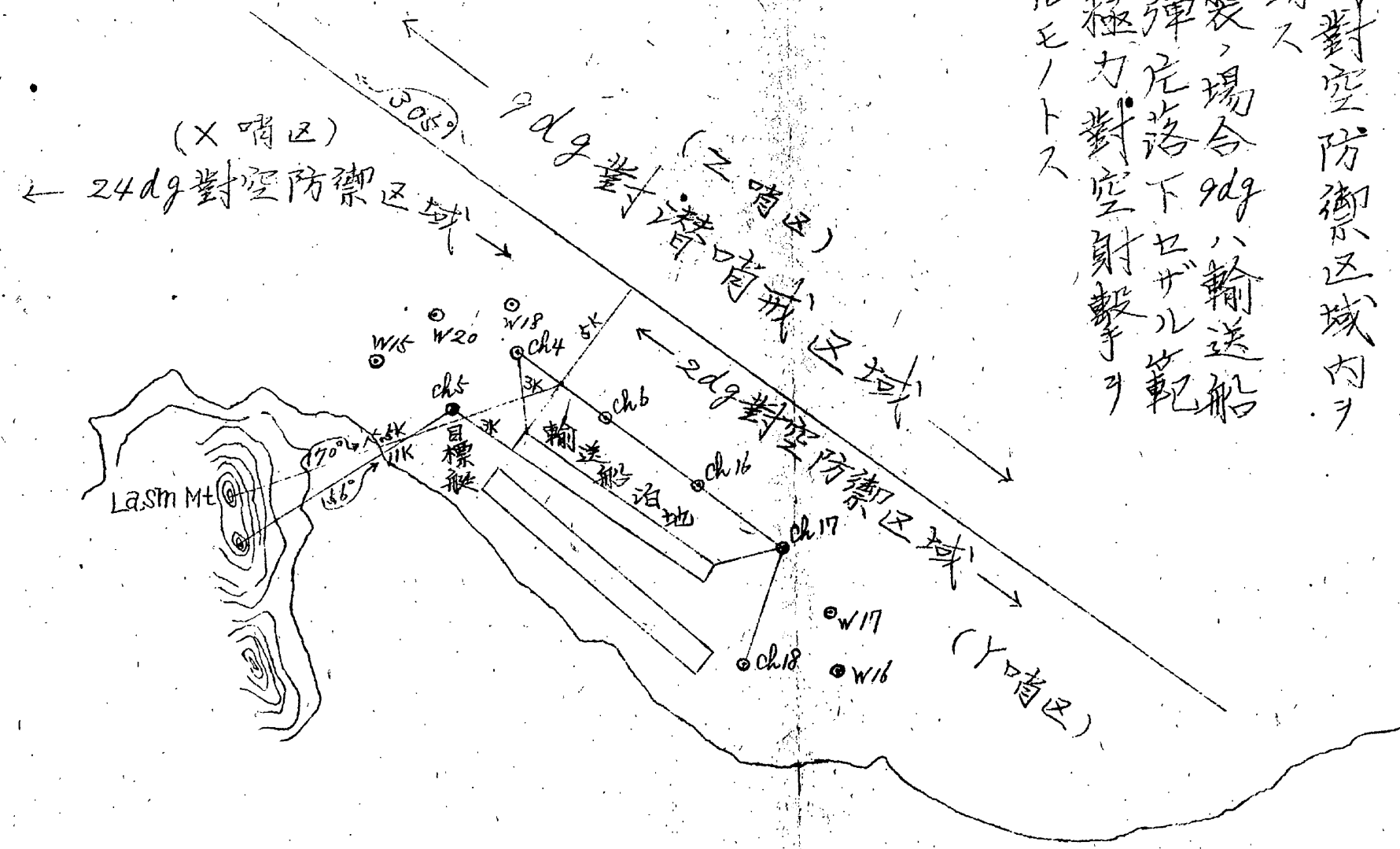
所

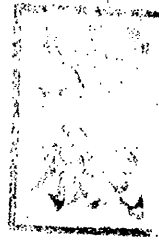
別圖第四(乙)

晝間哨区(日出後迄)

備考

- (一) 24dg 對空防禦区域内ヲ 機宜行動ス
- (二) 敵機來襲、場合 9dg ハ輸送船 隊泊地ニ彈片落下セザルニ 圍ニ於テ極力對空射撃ヲ 實施スルモノトス





昭和十七年二月四日「マニラ」

ト作戦ニ關スル

第四十八師團長

第四水雷戦隊司令官

間協定覚書

第四十八師團長 陸軍中將 土橋勇逸

第四水雷戦隊司令官 海軍少將 西村祥治

番 號	
11 / 50	
紙 數	枚

一、行動ノ概要
第一輸送船隊ノ行動

二月八日「ホロ」島に灣出港、二月十二日又十三日「ホロ」島到着、同地ニ於テ所要ノ準備ヲ整ヘタル後、(I-7)日「ホロ」島出發、(I-1)日夜上陸點泊地ニ進入ス

二、航路 別圖第一(甲)及同(乙)ノ如シ

三、航行速力

原速力	八節
半速力	七節
微速力	六節

一、集令地ニ於ケル行事
 第二、集令地ニ於ケル行事
 左ノ如シ

ホロ 十四日	リンガエン 七日	場所	日	開始時刻	行	事	實	施	要	領
一三三〇	〇九三〇	船長打合	護衛隊 輸送船隊 打合	細部	一三三〇	船長打合	一場所 那珂	二參集者 監督官 船長	一場所 那珂	二參集者 各輸送船 通信士
一三三〇	〇九三〇	船長打合	護衛隊 輸送船隊 打合	細部	一三三〇	船長打合	一場所 那珂	二參集者 監督官 船長	一場所 那珂	二參集者 各輸送船 通信士
一三三〇	〇九三〇	船長打合	護衛隊 輸送船隊 打合	細部	一三三〇	船長打合	一場所 那珂	二參集者 監督官 船長	一場所 那珂	二參集者 各輸送船 通信士

一 上陸點

第三、上陸點及偵察

二 偵察

「クラガン」南北、海岸トシ ①地区 ②地区ニ区分ス

「ホロ」島出發時迄ニ海軍航空隊ヲ以テ上陸點

附近、空中寫真ヲ完成シ師團ニ交付ス
三 泊地進入後上陸點、事前偵察ヲ實施セズ

一 軍隊区分

第四、上陸軍、部署

今井部隊

(長 今井大佐)

歩二大

山砲一大 基幹

安部部隊

(長 安部少將)

歩三大 戦二中 山砲二大 基幹
 北村部隊 (長北村中佐)
 搜索聯隊 基幹
 田中部隊 (長田中大佐)
 歩二大 山砲一大 基幹
 直轄部隊
 其、他、諸隊
 二行動、概要
 今井部隊
 ①地区ニ上陸シ一部ヲ以テ「マズラン」(「ベンダ」岬東南三軒)
 附近、隘路ヲ扼守セルニルト共ニ主力ハ「セダン」附近ニ進
 出ス
 安部部隊

3

ア 地区ニ上陸シ一部ヲ以テ「ブルジョワ」(ケラガン)東南十
四料海岸(附近ヲ占領セシメ主力ハ「ボンデヨール」(ケラ
ガ)南々東十料)附近ニ進出ス

北村部隊
イ 地区ニ上陸シ今井部隊ヲ超越シテ「ボヂャネガラ」ニ向ヒ
突進ス

田中部隊

ア 地区ニ上陸シ安部部隊ヲ超越シテ「チエパー」ニ向ヒ突
進ス

直轄部隊

前記諸隊ニ引續キ上陸ス

第五上陸開始及上陸日程

一 上陸開始期日

Ⅰ 日トス

二 上陸開始時期

投錨

上陸開始

〇一〇〇
〇二〇〇

備考

泊地ニ機雷アリテ其ノ處分ニ時間ヲ要スル場合ハ之ガ
終了ヲ待チテ入泊スルコトアリ

三 上陸日程

概ネ五日

軍需品揚陸ノ關係上此日頃以降「ベンド」岬以東
地区ニ轉錨ス

四 揚陸作業援助

海軍艦艇ハ陸軍ノ要請アル場合戰況之ヲ許ス限
リ舟艇ノ應急修理ヲ援助ス

一 輸送船隊 区分

第六輸送船隊ノ区分ニ指揮官所在

第一分隊 (同航行序列)

山菊(1)

乾坤(2)

いぐ(3)

南光(4)

再丁(5)

甲南(6)

第二分隊

淨空樓(21)

高岡(22)

和蘭(23)

北光(24)

旭盛(25)

大永(26)

第三分隊

乾山(31)

ひまらや(32)

はあぶら(33)

ありまな(34)

安山(35)

朝光(36)

第四分隊

日秀(41)

美洋(42)

伊太利(43)

あさか(44)

加州(45)

米山(46)

0411

第五分隊

白鹿(51) 帝洋(52) はんぶるぐ(53) 丁林(54) あらびや(55) 徳島(56)

第六分隊

宮殿(61) 仁山(62) うえいす(63) すえず(64) 多聞(65) 靖川(66)

第七分隊

薩摩(71) 民領(72) 保津川(73)

列外

相模 箕子

備考

バリ島奇襲部隊、乗船相模箕子ハ「マカツサ」ル海峡ニ於テ主力船隊ニ合シ同航ス

三、指揮官所在

上陸軍兵團長

ありなき (第三分隊)

今井部隊長
安部部隊長
護衛隊指揮官

重丁
那珂洋

(第一分隊)
(第五分隊)

第七海上護衛

「ホロ」島出發ヨリ上陸點泊地進入迄ノ上空警戒ハ
第三艦隊及第十一航空艦隊之ヲ擔任ス
ニ護衛兵力

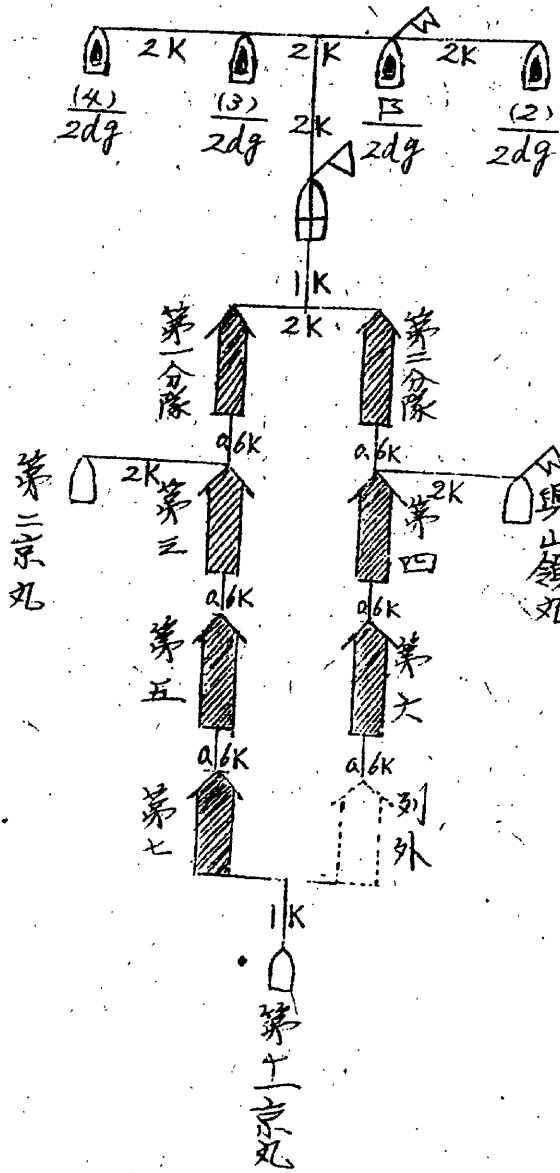
(イ) リンガエンレー「ホロ」間

巡洋艦一、駆逐艦四 (「アホ」水道迄) 駆潜艇三、敷設艦一 (「カス」)

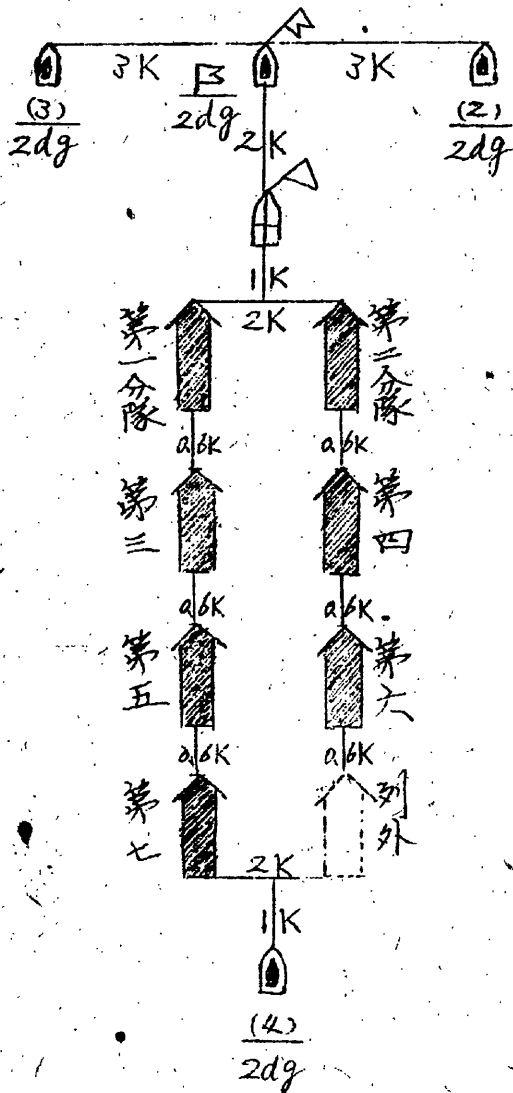
(ロ) 「ホロ」レー「クラガン」間

巡洋艦一、駆逐艦九、掃海艇二、駆潜艇六、敷設艦一

備考



二月十日ヨリ十六日迄第二根據地隊、驅潜艇若
 于ヲ以テ「バタ」泊地、對潜警戒ヲ行フ
 三、警戒航行隊形
 (1) リンガエン ↓ 「ホロ」
 第一警戒航行隊形 (「アホ」水道迄)



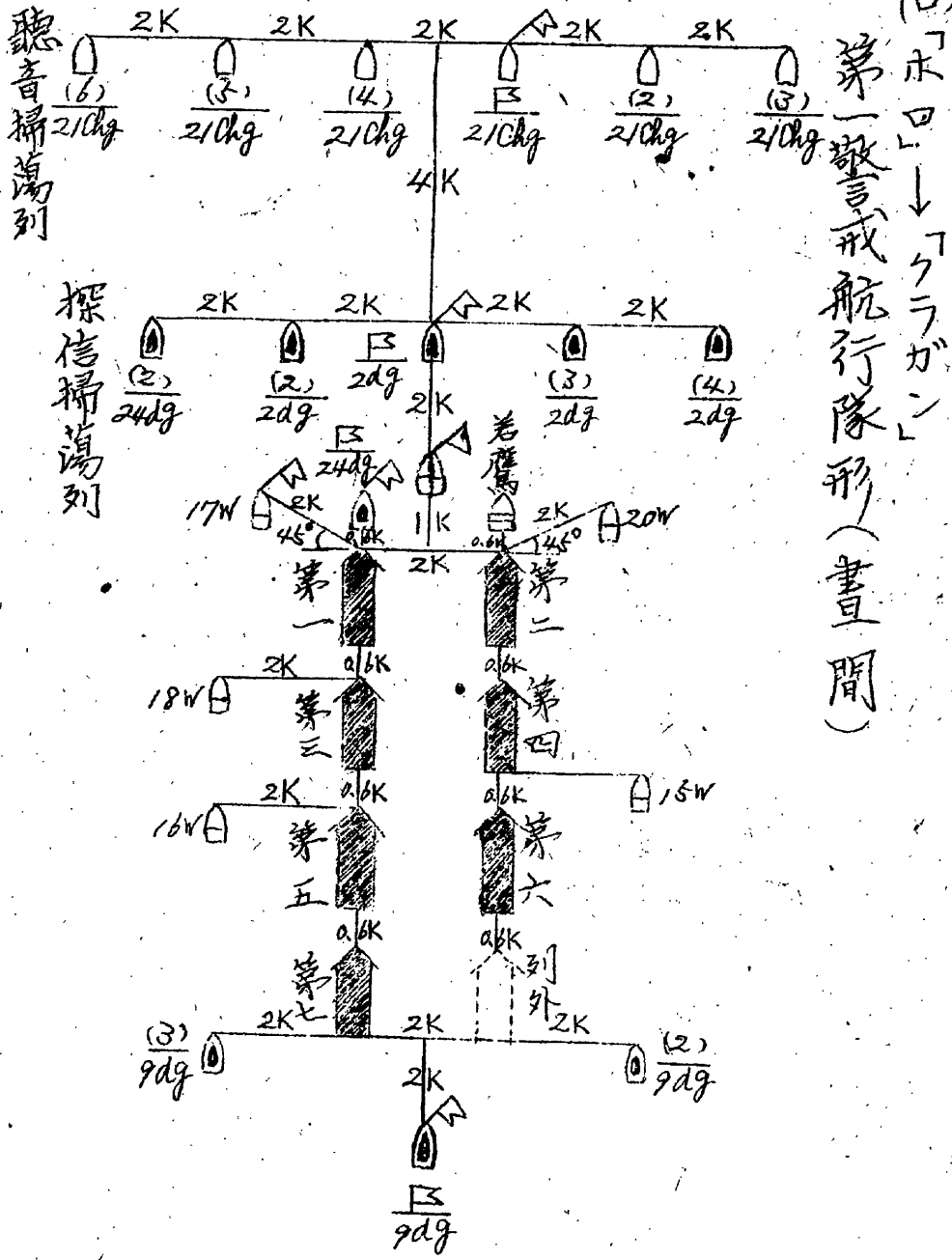
備考(以下同じ)

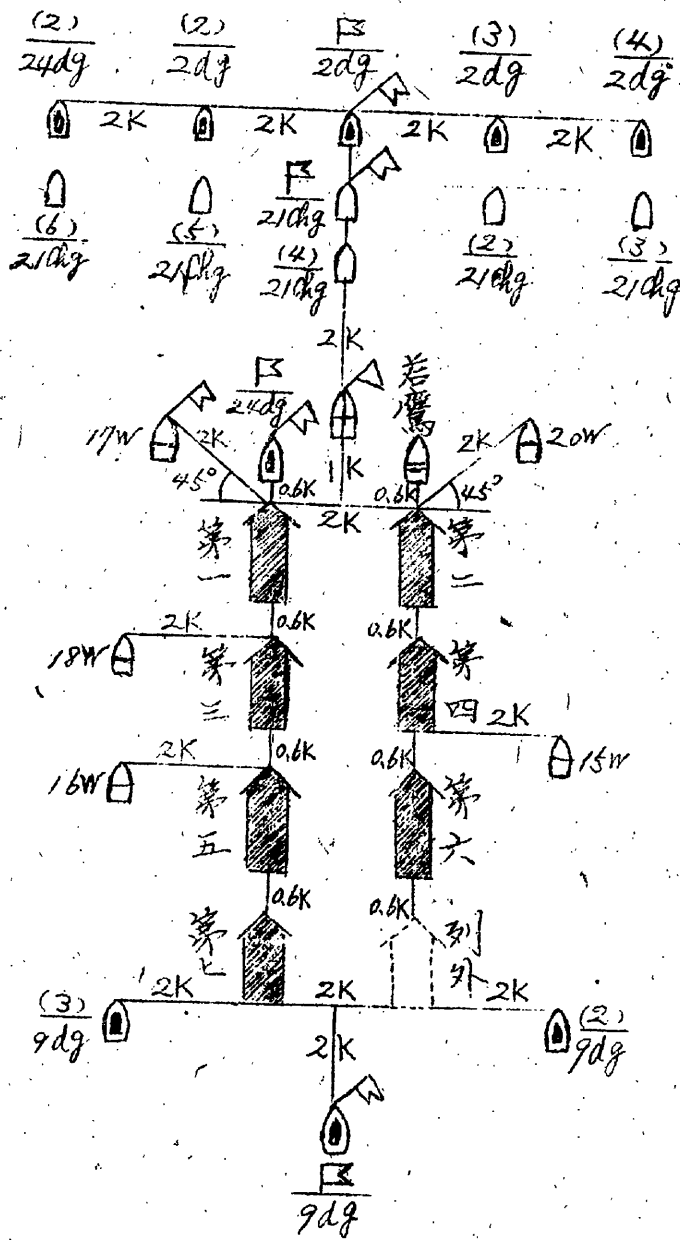
巡洋艦
 驅逐艦
 掃海艇
 敷設艦
 驅潛艇
 輸送船隊

第二警戒航行隊形(「アボ」水道通過後)

各船距離五〇米
 間隔六〇米

FLIT





第二敬言航行隊形 (夜間)

四 輸送船自衛兵器ノ使用

輸送船團航行中、對空射撃手ハ護衛艦射撃開始

後輸送船指揮官ノ所信ニ依リ之ヲ行ヒ其ノ他ノ場合

ニ於テハ自衛兵器ハ之ヲ使用セザルヲ例トス

五 敵飛行機潜水艦ヲ發見シタル場合ノ處置

敵飛行機潜水艦ヲ發見セル際ハ輸送船隊運動

並ニ通信規程ニ依ル信號ヲ行ヒ警戒艦ハ敵飛行機

(潜水艦)ヲ攻撃ス

輸送船隊ハ嚮向導艦ノ嚮向導ニ依リ運動スルト共ニ

所定信號ニ依リ回避ヲ行フ

狀況急ヲ要スル場合ハ前項ニ據ラズ自衛上適宜回

避運動ヲ行フコトヲ得

六 敵水上艦艇ヲ發見シタル場合ノ處置

機宜輸送船隊ヲ非敵側ニ避退セシムルト共ニ指定敵側艦艇ハ敵ヲ攻撃す

七、輸送船故障又ハ遭難時ノ處置

(一) 輸送船遭難セル場合ハ速ニ列外ニ出デ護衛隊指揮官所定ノ艦艇及必要ニ應ジ特令ニ依リ特

殊船之ガ救難ニ當ルモトス

(二) 故障落伍船ハ極力應急處置ヲ以テ輸送船隊ニ追及スルヲ原則トス

故障復舊ニ長時間ヲ要スル場合ハ護衛隊指揮官ノ特令ニ依リ行動ス

(三) 事故ニ依リ列外ニ出デタル船アルトキハ各分隊毎ニ

順次其ノ空位ヲ充スモトス

落伍船追及シタルトキハ特令ニ依リ固有位置ニ復

歸スルモノトス

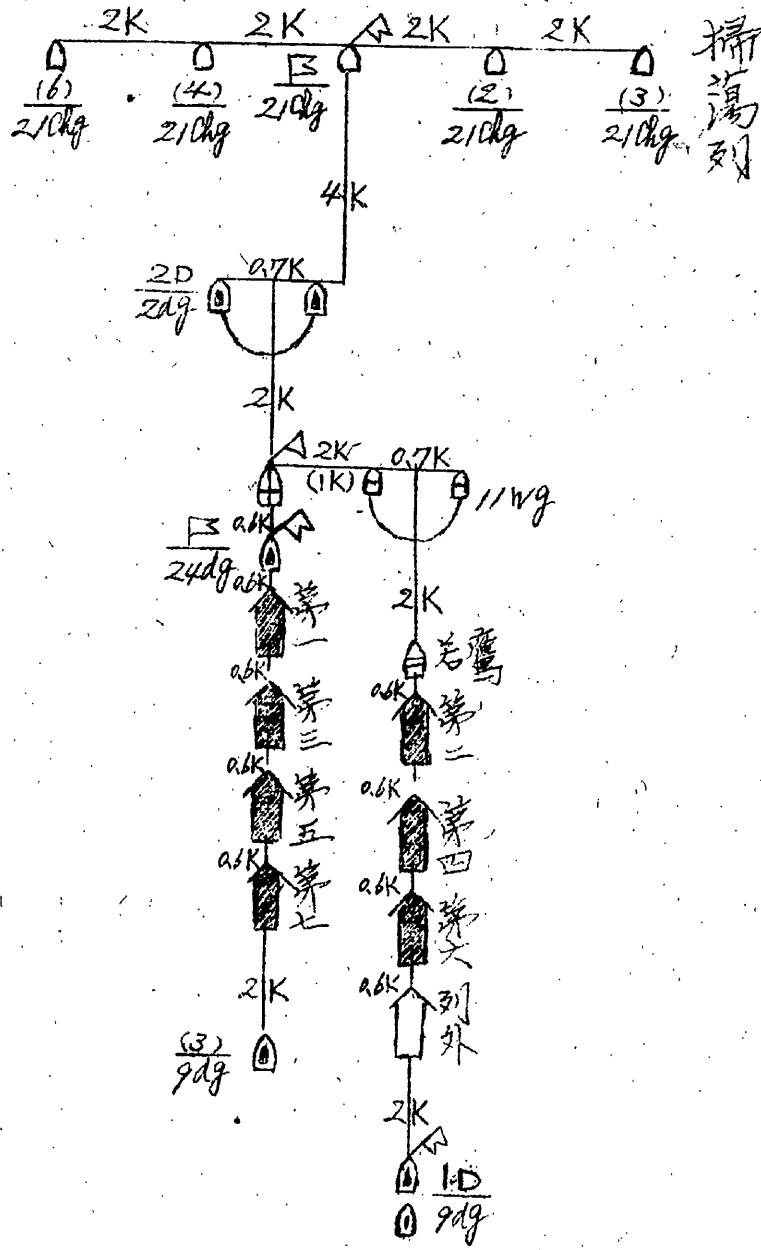
(二) 天候其ノ他ノ異變ニ依リ各船離散セル場合ハ指示
集合點又ハ所定時刻ニ上陸點泊地ニ於テ合同スル
如ク努ルモトス

八 溺者アリタル船ハ輸送船隊運動並ニ通信規程ニ
依リ附近ノ護衛艦ニ報告シ其ノ儘航進ヲ續クル
モノトス
溺者ノ救助ハ護衛艦之ニ當ルヲ立前トス

第八 碇泊隊形 泊地進入隊形及泊地
進入要領

一 泊地隊形
別圖第二ノ通
二 泊地進入隊形

6414



三、泊地進入要領

(1) 護衛隊指揮官ハ泊地進入前適時「泊地進入隊形制」ヲ令ス

(2) 次ヲ護衛隊指揮官ハ「泊地進入」ヲ令ス

(3) 輸送船隊ハ郷道守艦郷道ヲ下ニ錨地ニ入泊ス

(4) 入泊時輸送船速力ハ遞減標準「左」如ク定ム

三〇〇米前 入港(投錨)用意

一八〇米前 半速力

一二〇米前 微速力

六〇米前 停止

第九、上陸戦闘、上陸掩護及揚陸作業

一、上陸ハ奇襲ヲ本旨トスルモ強襲ニ移轉スルコトアルヲ豫期ス

二、上陸掩護

海軍艦艇、上陸正面ニ對スル掩護射撃ハ兵團長及
翼隊長ノ要求ニ依リ實施ス

但シ左記地区ニ對スル艦砲射撃ハ海軍指揮官ノ所信ニ
依ル

「バンド岬(含ム)以西地区及「ペトル岬(含ム)以東地区

三、防空

上陸警戒ハ第三艦隊及第十一航空艦隊之ヲ担任ス
敵機ニ對スル射撃ハ陸海軍指揮官各其ノ所信ニ依
リ實施ス

第十、上陸後ニ於ケル輸送船ノ行動

一、揚陸終了セル輸送船ハ護衛隊直接護衛又ハ間接護

鑑之下ニ所命ノ港灣ニ歸還ス
此ノ間成シ得レバ護衛隊指揮官ハ歸還スル輸送船ヲ
以テグタヘ河河口(ゴロエラン岬西八湮)附近ニ陽動スルコ
トアリ

第十一通信

一 別冊「通信ニ關スル協定」ニ據ル

第十二情報

一 陸海軍ハ努メテ相互ニ關係情報ヲ交換ス

(イ) 「ホロ」ニ於ケル情報交換

入泊後那珂ニ於テ情報交換ヲ行フ

(ロ) 航行間ノ情報交換

陸軍、海軍、放送スル情報ヲ傍受ス
其ノ他特ニ必要ナル場合ハ相互ニ通報ス

第十三、指揮官ノ行動

一、上陸兵團長

I日第三回目ニ
①地区ニ上陸シ「カリパン」
南三料ニ位置ス

二、護衛隊指揮官

那珂ハ泊地附近ヲ機宜行動ス

第十四、其ノ他ノ事項

一、第三艦隊航空母艦瑞穂千歳ノ水上機基地ヲ上陸點
附近ニ設定ス

之が為右面艦ヨリ一部ノ人員ヲ今井部隊ト同行シ準備セシム

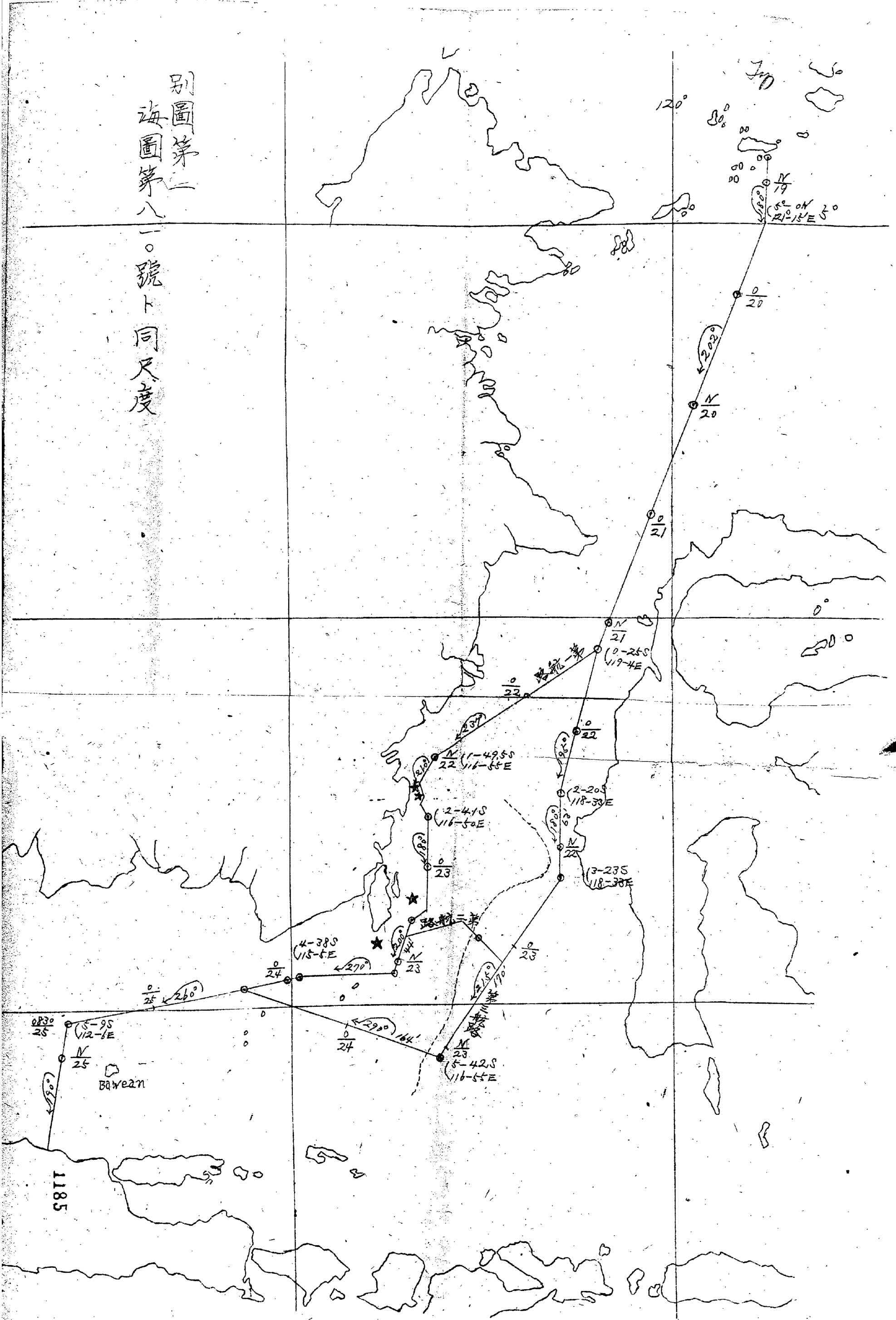
ニ「スラバヤ」海峡啓閉ノ目的ヲ以テ「スラバヤ」ヲ占領セバ成ル可ク速ニ「マスラ」島要塞ヲ攻略ス

之が為上陸軍ハ「クラガン」若ハ「ツバン」附近ヨリ舟艇接

動ニ依リ「マスラ」島ニ上陸ス
該行動ニ必要ナル掃海及掩護ニ關シテハ別ニ關係
海軍ト協定ス

(終)

別圖第二
海圖第八一〇號
同尺度



9811

3m

別圖第二
海圖第九八八號ト同尺度

